

八銀杏

第61号
令和7(2025)年
7月16日
藤嶺学園藤沢
中学校・高等学校
新聞部
(高校)
川村一穂 高橋航之介
古谷貴一 長谷川望人
平川慶明 堀竹涼平
経澤修希 塩見耶摩斗
秋山尊 中原圭太
中園智晶 大庭新
代島蒼一朗
(中学校)
村瀬山旭 石崎航成
題字 東山右衛先生

打線好調 大船下す 4回戦進出 13安打10得点 星太田 投手相手打線を抑える力投

7月15日に3回戦が俣野・横浜薬大スタジアムで行われた。応援スタンドから、吹奏楽部32名の演奏、本校中学野球部17名の声援が選手たちへ送られた。試合前に高校の香西教頭先生に話を伺うと「普段の練習を發揮してほしい」と選手へ期待を寄せていた。応援団の野球部員は「相手の隙をつくスキルを3年間磨いてきたので勝ちます」とや「相手に戦略を見抜かれているかもしれないがそれを上回る対応力で必ず勝ちたい、

1	2	3	4	5	6	7	8	9
5	4	6	3	9	2	7	8	1
藤嶺藤沢	石	鈴	沢	小	山	内	熊	星
沢	島	井	木	旭	森	本	海	谷

3回戦 スターティングメンバー



チームに勢いをつける
バッティング五島選手

「油断しないで、一戦必勝頑張っていきたい」と語った。初回から藤嶺藤沢が主導権を握る。先頭の五島選手が2塁打で出塁し、山本匠真の適時打などで2点を先制。五島はこの日4打数4安打(本塁打1)と大活躍し、攻撃の中心になった。6回にも連打と相手の失策で4点を挙げた。13安打10得点と打線が爆発した。



相手打線を抑える星投手

投手陣も安定し、先発星翔が3回1失点、継投の太田港祐も好投。大船高校は赤坂選手の二塁打などで3点を返したが、守備の乱れも響き、7回コールドで試合終了。10対3で藤嶺藤沢が勝利した。内海主将は「勝ててよかったです」と笑みを浮かべ、早くも次戦に向け引き締まった表情を見せた。五十嵐選手は「勝利できてよかった」と語り、五島選手は「次戦から相手がさらに強くなる、大雑把な戦略ではなく小刻みに戦略を突き詰め勝っていきたいと思いま



チームを指揮する菊地監督



【秋山堀竹川村大庭】

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	R	H	E
藤嶺藤沢	1	0	1	4	2	0	4				12	18	0
橋	0	0	0	0	0	0	0				0	2	2



チームを鼓舞する内海主将

18安打12得点 井出星投手10奪三振 2被安打に抑える



勝利校 校旗掲揚時の選手整理 歌われる校歌「高く掲げん我が理想～」



力投する井出投手・7回本塁打を放った

第107回全国高校野球選手権神奈川大会(県高野連など主催)2回戦が大和スタジアムにて、

7月11日9時より開始された。初戦の相手は橋高校であった。初回から得点を挙げ、7回コールド勝ち18安打12得点と快勝した。投げては井出投手が6回21打者に対し被安打2、星投手は1回5打者に対し被安打無し、と完封、両投手好投した。応援スタンドからは硬式野球部員を中心とした応援団による声援、吹奏楽部員による熱のこもった演奏、保護者からの声援、拍手が選手へ多く送られていた。一戦必勝、40年間目指し続けてきた神奈川の夏の頂へ、一戦一戦 選手20名、総勢104名の部員が躍動する。



相手打線を封じた星投手

【堀竹川村代島】